

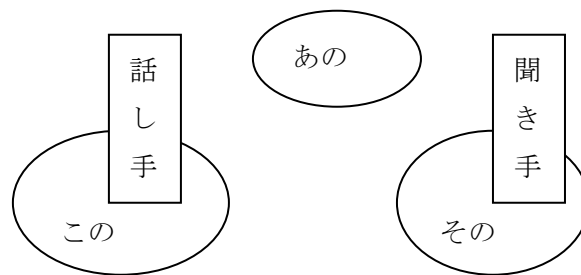
「この」「その」「あの」の使い方

現場指示……対話などで、指で直接何かを指し示すようなとき

文脈指示……話の中（または文の中）の特定のものを示すとき

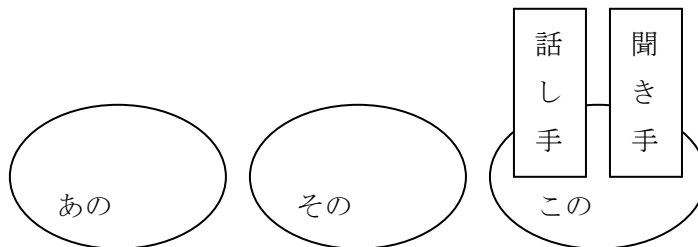
1. 現場指示

- (1) 話し手の領域にあるものを「この」、聞き手の領域にあるものを「その」、両者の領域外にあるものを「あの」で示す。



- 例：①（手に持っているものを指して）昨日図書館で、この本を借りました。
②（相手が持っているものを指して）そのカメラは、どこで買いましたか。
③（机の上にあるものを指して）あのノートは誰のですか。

- (2) 話し手、聞き手の距離感によって、近くを「この」、遠くを「あの」、中間を「その」で示す。



近いか遠いかの判断は、話し手の感覚で決まる。

例：「その階段を下りて左側です」「ああ、あの階段ですか」

2. 文脈指示

- ① この件はまだ誰にも話していないんだが、実は僕は来週辞表を出すつもりだ。

上記のように、直後に話す内容を示す場合に「この」が使われる。

- ② 私の会社は秋葉原にあります。この街にはたくさんの電器店があつて・・・。
③ 私は毎朝、秋葉原駅で降りるんですが、その駅を出るとすぐ左側に・・・。

話の中（または文の中）で、直前に出てきたものを言う場合「この」「その」を使う。上記で、②に「その」を使うことは可能である。「その」は「この」に比べて、指し示されるものに対して少し距離を置いている感じとなる。

- ④ 「駅を出て昭和通りを右側に行くと川があります」「その川の名前は何ですか」
⑤ 「今日は、仕事で新宿に行ってきました」「あの街は、いつも賑やかですね」

上記の会話で、一方は川のことを知らなかった。このような場合には「その」を使う。新宿については、両者が知っている。そのような場合には「あの」を使う。

- ⑥ △△駅ができたのは、40年以上も前だったなあ。あの頃は、電車も1時間に2本しか来なくてね・・・。

話し手が回想して言う場合には、聞き手が知っているも知らなくても「あの」を使う。

指示語の一覧表

連体詞	この	その	あの
連体詞	こんな	そんな	あんな
名詞（もの）	これ	それ	あれ
名詞（場所）	ここ	そこ	あそこ
名詞（方向）	こちら	そちら	あちら
副詞	こう	そう	ああ

参考) 上記以外に、指示対象が不明な場合の指示語（疑問語）、「どの」「どんな」「どれ」「どこ」「どちら」「どう」がある。